観光復興とスタディツーリズム

経営情報学部　事業構想学科　中庭ゼミ所属
２１８１１２４９　西田　翔一　（21811249sn@tama.ac.jp）

１．目的

本発表の目的は、東日本大震災被災地域の復興・地域活性化において表現されている「スタディツーリズム」「スタディ・体験ツアー」の現状を調査することにより、被災した地域に「観光復興」がもたらす地域再生効果を構築するための研究計画を示すことにある。

２．背景

２０１１年３月１１日、東日本大震災により、人口減少が続いていき震災から現在までの８年の間で岩手・宮城・福島３県でおよそ３０万人減少した。これに対応して、人口減少や過疎化といった課題を解決させるべく、地方自治体や地元の観光企業は観光復興・地域再生に力を注いでいる。

しかし、JATA（日本旅行業協会）の旅行取扱状況速報によると、海外旅行に対し国内旅行は低迷傾向にあたる。国内旅行の低迷については、海外旅行及びその他の各種レジャーに比較して、現在の国内旅行が「魅力に欠けている」と観光市場に判然されている。震災後、現在でも復旧の見通しもついていない地域も存在しており、生活インフラの破壊による生活基盤の消失もままならない状態であり、この状況から観光まちづくりや地域振興、地域経済のあり方について根本的に考える必要がある。

観光復興をこのように考えるならば、人口減少リスクに対応すべく国内の観光客・インバウンドを被災地（今回は主に三陸地域を対象とする）に誘致するためには、震災復興の内容と対等している地域産業・文化・現状風景に体験をして、今後の社会のあり方について「スタディツーリズム」「サスティナブルツーリズム」の関係を切り開く手がかりとなるだろう。

スタディ・ツアーとは、企画や主催・目的・行き先を形態や内容に関わらず「学習する」目的を持った旅行であり、地域についてのまなざしを変化させ、社会課題を明確にして解決策へと導かせる効果を促す。

３．方法

スタディ・ツアーの効果が、どのように復興に貢献するのか明確にするために、以下の方法を採用する。（１）ネット調査や文献調査を行う。（２）岩手県釜石市で旅行・体験ツアー業者、地元観光企業にインタビュー調査を行う。（３）得られた情報を元に、現状を把握し、「スタディツーリズム」による復興への貢献過程を構築する。

４．質的データの分析枠組み

これまでの観光行動時の「スタディツーリズム」が、観光客やインバウンドにもたらす影響や、消費者が地域復興・体験ツアーでの経験・出会い・発見を通して、観光そのものの見方や価値観の変化、課題発見・課題解決からなる「スタディ・ツアーの復興プロセス」を重点的に検討する。

＜参考文献＞

市原芳夫　スタディ・ツアーのすすめ　岩波ジュニア新書（2004 年 2 月 20 日）
大社充　体験交流型ツーリズムの手法　学芸出版社（2008 年 6 月 30 日）
中村良平　東日本大震災で考えるこれからの地域振興